



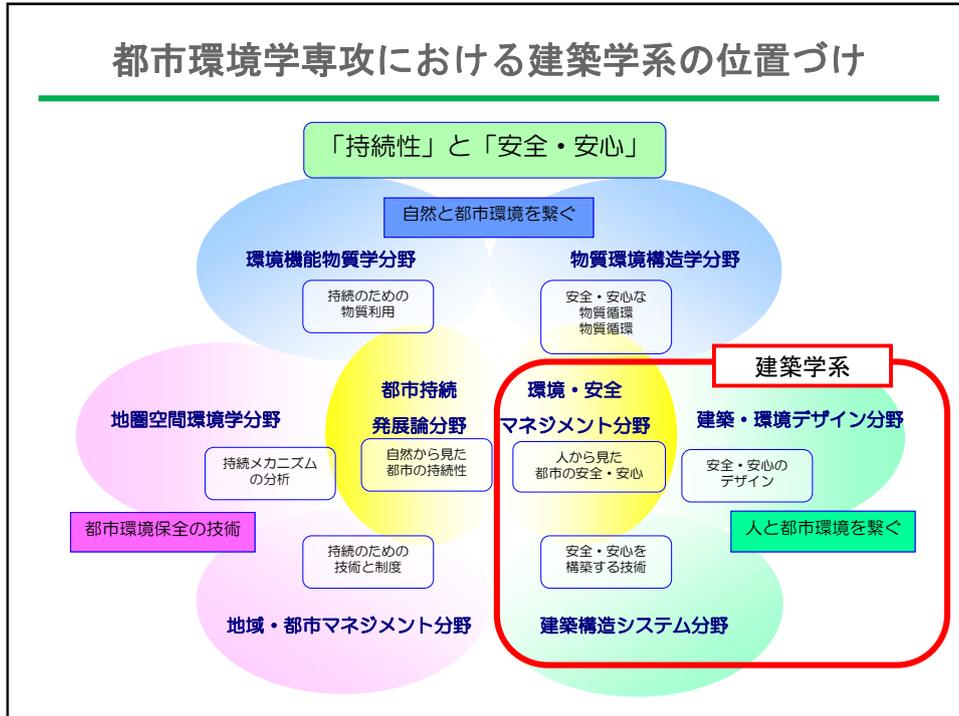
1

建築学コースの研究・教育目標

- 建築および都市における施設・環境の計画・設計、生産および保全のための学術理論・方法論・応用について総合的に研究・教育を行うことを目的とする。
- デザイン学、施設計画学、環境・設備工学、構造・材料工学、生産技術の個別専門領域の基幹的研究・教育に加えて、情報化や先端技術の発展による工学の進展、成熟社会への移行など、近年および将来における著しい情勢変化に対応するために、都市環境設計工学、地域防災安全工学などの新たな領域にも対応を広げ、広域的・先端的な研究・教育を行っている。

2

都市環境学専攻における建築学系の位置づけ



3

環境・安全マネジメント講座 教員



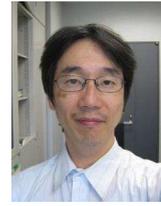
飯塚 悟 教授
 温熱環境, 空気環境,
 都市環境, 屋外環境,
 室内環境, 流体力学



西澤 泰彦 教授
 建築および工学技術
 の歴史



飛田 潤 教授
 地震工学, 耐震工学,
 地盤震動, 環境振動



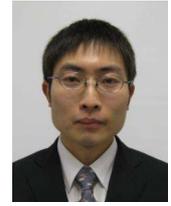
護 雅史 教授
 耐震構造, 地震工学,
 地震防災



長江 拓也 准教授
 建築構造, 耐震工学



宮脇 勝 准教授
 都市計画, アーバン
 デザイン, 景観計画,
 まちづくり, 都市再生



平井 敬 助教
 地震学・地震工
 学・地震防災



李 燕 助教
 建築計画, 公共図
 書の施設計画

4

建築・環境デザイン講座 教員



田中 英紀 教授
建築環境設備
エネルギーマネジメント



齋藤 輝幸 准教授
環境心理・生理, 温
熱環境評価, 建築
設備, 住宅換気



小松 尚 教授
建築計画, 地域計
画, 居場所論, 建築
ストックマネジメント



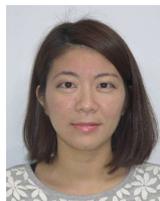
恒川 和久 教授
建築計画, ファシリ
ティマネジメント



太幡 英亮 准教授
建築計画(街路空間、
住環境の意味論、大
学施設、建築・家具デ
ザイン)



堀田 典裕 准教授
建築・都市に関する
デザインおよび理論



鵜飼 真貴子 助教
建築設備, 自然エネ
ルギー利用, システムの
最適運転制御



山出 美弥 助教
都市計画, まちづくり
日・英における産業
遺産の保存活用

5

建築構造システム講座 教員



荒木 慶一 教授
構造力学, 計算力学,
設計力学, 構造安定論,
構造材料



丸山 一平 教授
極限環境下の建築材料
開発・性能評価, 建物の
経年変化マネジメント,
新材開発, 耐久設計



日比野 陽 准教授
鉄筋コンクリート構造,
耐震設計



浅井 竜也 助教
鉄筋コンクリート構造,
耐震設計, 耐津波設計

6

持続発展学コース所属の建築系教員



森 保宏 教授
[地圏空間環境学講座]
信頼性工学, 耐震工学,
維持・管理計画, 設計用
荷重のモデル化, リスク
マネジメント



尾崎 文宣 准教授
[地圏空間環境学講座]
鋼構造, 薄板軽量形鋼造建築物,
構造力学, 耐震・耐火設計,
火災工学



李 時桓 准教授
[地圏空間環境学講座]
空気質環境, 換気設備,
温熱快適性, 環境シミュレ
ーション

7

建築学コース ウェブサイト <http://www.nuac.nagoya-u.ac.jp/>

名古屋大学 建築学系/建築プログラム

NU

ARCHITECTURE

ホーム

専攻・学科の紹介

教育(学部・大学院)

受験生の方へ

受賞一覧

アクセスマップ

学内向け情報



8

最近の主な受賞件数

教員(2012-2021)

- 2021年度～:1件
- 2020年度～:2件
- 2019年度～:3件
- 2018年度～:5件
- 2017年度:7件
- 2016年度:6件
- 2015年度:13件
- 2014年度:16件
- 2013年度:8件
- 2012年度:10件

学生(2016-2021)

- 2021年度～:2件
- 2020年度～:20件
- 2019年度～:15件
- 2018年度～:17件
- 2017年度:26件
- 2016年度:22件

9

2019年度以降の主な受賞(教員)

小松 尚 教授

- 2021年 令和3年度全国建築審査会長協議会表彰(全国建築審査会長協議会)
- 2021年 日本建築学会著作賞『「地区の家」と「屋根のある広場」イタリア発・公共建築のつくりかた』(鹿島出版会、2018)(小篠隆生氏との共同受賞)

福和 伸夫 教授

- 2019年 日本建築学会著作賞「次の震災について本当のことを話してみよう。」(時事通信社、2017)

丸山 一平 教授

- 2019年 日本コンクリート工学会・学会賞(論文)
「Impact of Drying on Structural Performance of Reinforced Concrete Shear Walls」

宮脇 勝 准教授

- 2019年 日本都市計画学会 2018年度年間優秀論文賞「イタリア第三世代の景観計画と景観保護における国の役割に関する研究」

太幡 英亮 准教授

- 2019年 キッズデザイン賞「子連れコワーキングスペース」

10

2020年度以降の主な受賞（学生）

熊野拓郎

2022年 日本建築学会東海支部学生優秀学術講演賞

竹村弘生

2021年 日本建築学会大会(東海)学術講演会 建築計画委員会 若手優秀発表賞

能瀬泰明

2021年 空気調和・衛生工学会振興賞学生賞

板橋 佳祐, 中西 杏樹

2020年 日本建築学会設計競技 東海支部入選

植木柚花

2020年 日本建築学会東海支部学生優秀学術講演賞

神谷珠文, 熊野拓郎, 白井めぐみ, 橋 航輝

2020年 建築設備技術者協会中部支部 創立30周年記念学生記念コンペ 優秀賞

高椋 敦士, 竹内 宏輔

2020年 建築設備技術者協会中部支部 創立30周年記念学生記念コンペ 優秀賞

橋 航輝

2020年 空気調和・衛生工学会 優秀講演奨励賞

陳 子嘉

2020年 セントラル硝子 第55回セントラル硝子国際建築設計競技 佳作

山本 和貴・熊野 拓郎

2020年 日本建築学会設計競技 東海支部入選

11

カリキュラム

科目区分

1. 体系理解科目

- ・ 環境学に関する横断的な講義、演習

2. 専門科目

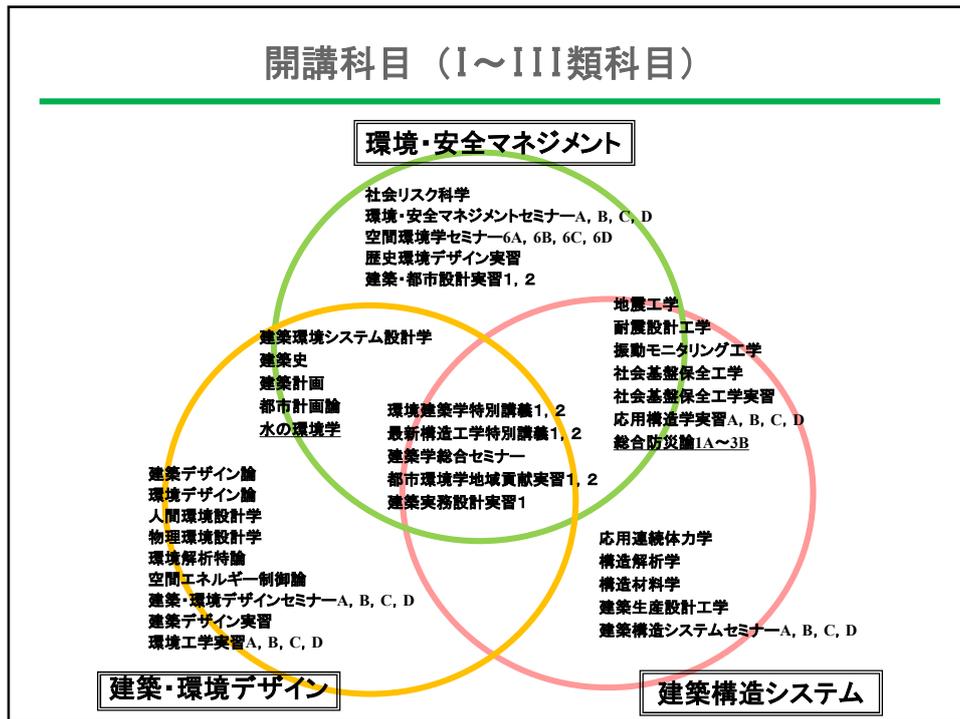
- ・ I 類(講義)
- ・ II 類(セミナー)
- ・ III 類(実験・演習)

3. 他専攻等科目

- ・ 他専攻
- ・ (他研究科, 他大学大学院)

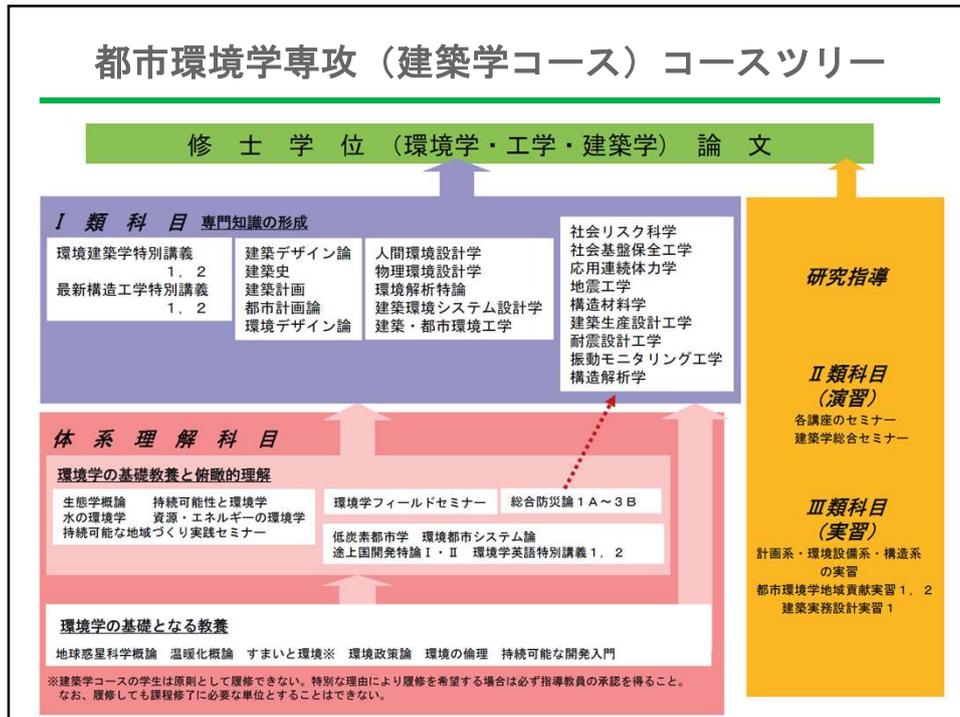
12

開講科目（I～III類科目）



13

都市環境学専攻（建築学コース）コースツリー



14

修士の学位と修了要件(1)

- 修士(環境学)
 - 修士(工学)
 - 修士(建築学)
- 履修単位数は各々合計30単位以上
 - それぞれの学位で、修了要件が異なる。
 - ただし、一般選抜(自己推薦入試)で合格し、入学した者は、修士(環境学)のみ取得可能である。

15

修士の学位と修了要件(2)

修士 (環境学)	体系理解科目から8単位以上、Ⅰ類、Ⅱ類及びⅢ類の授業科目から20単位以上(自専攻の授業科目から14単位以上、ただし、Ⅱ類の授業科目8単位以上を含むこと。)、合計30単位以上。(30単位の中には、他専攻、他研究科等の授業科目の単位数を含めることができる。)研究指導は必修とする。
修士 (工学)	体系理解科目から4単位以上、自専攻のⅠ類、Ⅱ類及びⅢ類の授業科目から20単位以上(履修授業科目表1に定めるⅠ類の授業科目から8単位以上、Ⅱ類の授業科目8単位以上、Ⅲ類の授業科目4単位以上を含むこと。)、合計30単位以上。(30単位の中には、他専攻、他研究科等の授業科目の単位数を含めることができる。さらに、これとは別に単位互換協定に基づき修得した単位は4単位まで含めることができる。)研究指導は必修とする。
修士 (建築学)	体系理解科目から4単位以上、履修授業科目表1に定めるⅠ類、Ⅱ類及びⅢ類の授業科目から20単位以上(Ⅱ類の授業科目8単位以上、Ⅲ類の授業科目4単位以上を含むこと。)、合計30単位以上。(30単位の中には、他専攻、他研究科等の授業科目の単位数を含めることができる。さらに、これとは別に単位互換協定に基づき修得した単位は4単位まで含めることができる。)研究指導は必修とする。

16

建築士試験の受験資格を得るために必要な実務経験と 建築インターンシップ及び建築インターンシップ関連科目

- 大学卒業後、一級建築士の免許登録をするためには、2年以上の実務経験が必要
- 大学院（博士前期課程・博士後期課程）における、①建築インターンシップ*1及び建築インターンシップ関連科目の履修や、②大学院で行う建築物に係る研究*2が実務経験として認定される。

***1 建築インターンシップ**：講義、演習等で学んだ内容を活かして、建築士事務所等、実務経験者の指導の下で実務を体験しながら、現場に即した知識や技術、職業倫理を身に付ける実習。夏休み等に建築士事務所等に出向き、一級建築士や建築設備士の下で実習する。

***2 建築物に係る研究**：査読付き論文に著者として投稿した論文（筆頭、連名は問わない）が掲載された場合に、論文執筆のために研究に従事した期間が実務経験として認定される。

17

博士の学位と修了要件

博士 (環境学)	博士後期課程の授業科目から <u>8単位以上履修すること。ただし研究科共通又は他専攻の授業科目2単位以上を含むこと。研究指導は必修とする。</u>
博士 (工学)	博士後期課程の授業科目から <u>8単位以上履修すること。研究指導は必修とする。</u>
博士 (建築学)	博士後期課程の授業科目から履修授業科目表2に定める授業科目を <u>4単位以上含み8単位以上履修すること。研究指導は必修とする。</u>

- 短縮修了の制度もあります

18

建築学系の特色ある取り組み



ES総合館等
大学キャンパスの計画・設計



海外の大学との交流

19

<p>西澤泰彦 研究室</p> <p>○日本および東アジア地域における建築・都市の近代化に関する研究</p>	<p>環境・安全マネジメント講座</p>
<p>宮脇勝・山出美弥 研究室</p> <p>○広域環境と都市計画とアーバンデザイン ○21世紀の都市計画の研究/持続可能な都市計画/スマートシティ</p>	<p>洋上風力発電施設の立地計画</p> <p>環境・安全マネジメント講座</p>
<p>小松尚・李燕 研究室</p> <p>○建築計画（主に公共建築） ○まちの居場所としての建築・都市空間</p>	<p>学校や公共図書館の建築計画・設計及び運営支援</p> <p>建築・環境デザイン講座</p>

20



21



22

特徴的な研究の例

環境工学・設備工学
田中英紀教授・飯塚悟教授・齋藤輝幸准教授

日本で唯一の
人工太陽光を用いた屋外環境実験室
を用いた太陽熱システムの性能評価

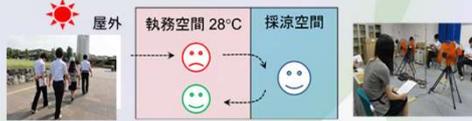


人間

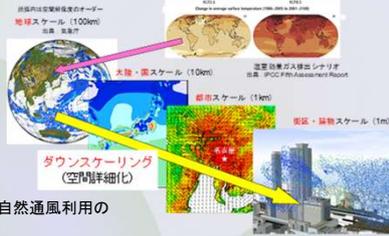
- 暑熱適応を前提とした積極的な自然通風利用の検討
- 住宅における夏期自然通風時の快適性
- ウェルネス空調と人体・エネルギー評価
- 通過空間としての駅舎通過時の快適性
- エアカーテンとドライミストを用いた工場内の暑熱対策の検討

採涼室の利用効果

28°C執務室とは別に採涼室を設けて、必要に応じて空間を移動することで、冷房に対する異なる要望を満足させる検討



温暖化ダウンスケーリングモデルの開発



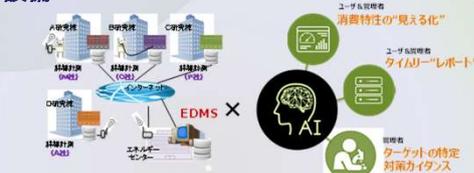
環境

- コンパクトシティモデルの提案と環境影響評価(将来2050年代)
- 巨大地震発生時における密集市街地の火災延焼予測と避難誘導計画
- 暑熱環境緩和策(風の道・高反射率塗料)の導入効果
- 大都市圏における降雨量・雨の強さの将来推移予測
- 次世代スマートコミュニティシステムの検討

データ駆動型エネルギーマネジメント

エネルギー使用に関するビッグデータ集約とAI活用による見えるか・分析・対策立案の省力化・合理化に関する実装研究

設備



- 建物のパッシブ・デザイン手法の性能評価
- 既存建物のエネルギーマネジメント手法の開発
- テレワーク導入による建物エネルギー消費量への影響度の検討

23

建築構造・材料性能の解明と向上

a) 荷重・耐力係数の略算法

eg. $\phi \cdot R > Y_0 \cdot D + Y_{1s} \cdot L_s + Y_E \cdot E$

ϕ, Y : 荷重・耐力の不確かさ, 目標性能水準を反映
AJJ: 建築物荷重指針 (2004, 2015)
ISO22111 (構造設計の一般枠組み, 2019)

b) ISO2394 (構造物の信頼性に関する一般原則) のJIS化

性能設計の実用化に向けた研究

電子顕微鏡やX線回折装置を用いた材料分析

新しい形状記憶合金の開発

鉄骨構造物の耐火性能確認実験

RC構造物の破壊挙動の数値解析的再現

超高层建物ねじれ現象の解析

AIを用いたRC構造物の損傷予測

環境学研究所 都市環境学専攻 地圏空間環境学講座(森)・地域・都市マネジメント講座(尾崎)・建築構造システム講座(荒木・丸山・日比野・浅井)

24

地震災害軽減に向けて

大学院環境学研究所 都市環境学専攻
環境・安全マネジメント講座 (飛田・護・長江・平井)

建築物の振動モニタリング

免震建物の実大振動実験 (減災館) 免震装置と振動実験機材 (企業と連携)

地震観測機材の開発と観測網 (自治体と連携) 複雑な建物振動挙動のモニタリング

ロープモデル かごモデル 建物モデル 大地震時のエレベータ停止・閉じ込めの予測

災害時の機能継続

オイルタンク 油圧シヤツキ 巻上げ式電圧計

杭基礎建物の地震時建物・室内什器応答予測

杭基礎建物の3次元解析モデルによる時刻歴非線形地震応答解析

VR技術による床応答波形を用いた室内什器応答の可視化 (同時に複数人が体験可能)

地盤・建物動的相互作用を含む実建物の振動性状分析

COVID-19まん延対応と南海トラフ地震臨時情報の類似性に着目した研究

古文書の解読による歴史災害の調査

有限差分法による数値解析を用いた地震動の予測

常時微動観測による地下の不整形構造の検出・モデル化

25

名古屋大学大学院 環境学研究所
都市環境学専攻 建築学コース
+
パリ・ヴァル・ドゥ・セーヌ
国立高等建築学校
+
天津大学建築学院

国際建築・都市設計ワークショップ
(2022年4月23日~29日)

2009年以降、通算23回目のWS!
オンラインで開催

ONLINE WORKSHOP

OP-MEDIA-café-DESIGN

A PLACE FOR YOUR HEART IN CAMPUS

20 April 22 April

April 23-29

-12th-22nd April, Pre-work
-19th April 14:00 (Beijing Time),
Lecture
-23rd April, Start of the workshop
-29th April 15:00 (Beijing Time),
Final presentation on
VooV Meeting and Billibili

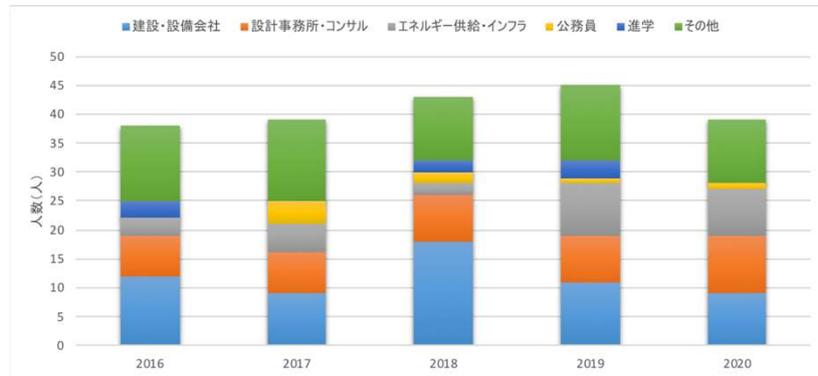
Re-defining space with multi-perspectives' narratives
筑点都市の空間再定義
Lecture by Qin Zhong
19th April 14:00 (Beijing Time)
on VooV Meeting 19th April 14:00

天津大学
Tianjin University

名古屋大学
Nagoya University

26

博士前期課程修了後の進路（2016～2020年度）



2. 大学院博士前期課程修了生の進路（2021年4月）

1) 就職：32名

建設・設備会社：竹中工務店（3）、大林組（2）、大成建設、安藤・間、佐藤工業 ほか
 設計事務所・コンサル：日建設計、日本設計（2）、三菱地所設計（2）、山下設計 ほか
 エネルギー・インフラ：中部電力、東京電力、関西電力、大阪ガス、日揮、ソフトバンク ほか

27

入試日程

• I期入試

– A日程 8月5日（金） 自己推薦入試

– B日程 8月18（木）～20日（土） 一般選抜、他
 ※A日程とB日程の両方に出願することはできない。

※自己推薦入試は若干名

※願書受付7月4～8日（金）16時必着：郵送のみ受付

• II期入試 例年1月下旬～2月上旬に実施 （注：博士後期課程のみ）

• 英語はTOEFL/TOEIC/IELTSスコアの原本を、原則として出願時に提出（返却なし）。指定期日までのスコアシート原本の提出や差し替えも認める。提出できない場合は英語は零点となる。詳細は募集要項・受験案内を確認されたい。

• Regarding master course entrance exam, answering in Japanese is required.

• I期入試では、博士後期課程のみ秋入学（10月）の入試も実施する。

28

2023年度 I期入試日程（前期課程）

A日程	時間	一般選抜(自己推薦入試)			試験場(注1)
2022年 8月5日(金)	13:00-	試験場集合			環境総合館1階 レクチャーホール 同上
	13:30-17:30	口述試験			
B日程	時間	一般選抜 (普通入試)	留学生 特別選抜	社会人特別選抜	試験場(注1)(注2)
2022年 8月18日(木)	13:00-	試験場集合	-	試験場集合	計画系・設計製図 環境総合館1階レク チャーホール 環境系／構造系 環境総合館3階 講義室2・講義室3
	計画系・設計製図 13:30-18:40	筆記試験 (専門科目Ⅰ)	-	筆記試験 (専門科目Ⅰ)	
	環境系／構造系 13:30-17:30	筆記試験 (専門科目Ⅰ)	-	筆記試験 (専門科目Ⅰ)	
2022年 8月19日(金)	9:00-12:00	筆記試験 (専門科目Ⅱ)	-	-	環境総合館3階 講義室2・講義室3
	13:30-(注3)	面接	-	面接	
2022年 8月20日(土)	9:00-12:00	-	口述試験 (専門科目Ⅰ)	-	別途指示(注4)
	13:30-(注3)	-	面接	-	別途指示(注4)

(注1) 受験生の人数が多い場合は、試験場を変更することもある。その場合は、別途通知する。

(注2) 事前に選択し申告する分野により、試験場が異なる。

(注3) 受験生の人数によっては、面接開始時刻や終了時刻が変更になることもある。その場合は、後日通知する。

(注4) Microsoft TeamsまたはZoomを用いてオンラインで実施する。実施方法の詳細は別途通知する。

29

2023年度 I期入試日程（後期課程）

B日程	時間	一般選抜	留学生 特別選抜	社会人特別選抜
2022年 8月18日(木)	10:00-12:00	口述試験(注1)	口述試験(注1)	口述試験(注1)
	13:00-	試験場集合(注2) 環境総合館3階 講義室2・講義室3		
	13:30-16:30	筆記試験 (専門科目)		
2022年 8月19日(金)	9:00-12:00	口述試験(注1)	-	面接(注2) 環境総合館3階 講義室2・講義室3
	13:30-(注3)	面接(注2) 環境総合館3階 講義室2・講義室3		
2022年 8月20日(土)	13:30-(注3)	-	面接(注4)	-

(注1) これまでの研究内容及び後期課程での研究計画について試問するとともに、専門に関する能力について口述による試験を行う。口述試験はいずれかの時間帯で実施するので、指導希望教員と連絡を取って確認すること。留学生特別選抜は、Microsoft TeamsまたはZoomを用いてオンラインで実施する。

(注2) 受験生の人数が多い場合は、試験場を変更することもある。その場合は、指導希望教員より通知する。

(注3) 受験生の人数によっては、面接開始時刻や終了時刻が変更になることもある。その場合は、後日通知する。

(注4) Microsoft TeamsまたはZoomを用いてオンラインで実施する。実施方法の詳細は別途通知する。

30

TOEFL/TOEIC/IELTSを利用した 試験科目「英語」の実施について

- TOEFL/TOEIC/IELTSのスコアシートは、原則として出願書類提出時にその原本を同封すること。但し、出願書類提出時にスコアシートを提出できない場合、または新たに取得したスコアシートに差し替えたい場合は、指定期日までの郵送およびおよびA日程試験日の持参によるスコアシート原本の提出を認める。
- 原本を提出しない場合は、試験科目「英語」の点数を零点とする。なお、英語を母語とする者については、TOEFL/TOEIC/IELTSのスコアシート原本の提出を免除し、口述試験と面接試験の結果に基づき試験科目「英語」の採点を行う。2022年6月24日(金)までに指導希望教員に連絡すること。
- 今回の試験で有効とする外部検定試験の種別ならびに受験年月日については、募集要項「6. 提出書類」を参照すること。
- 入試までの間に開催されるTOEFL/TOEIC/IELTSの試験回数は限られているので、これから試験を受ける者は注意すること。
- 他の詳細も含め、「2023年度名古屋大学大学院環境学研究科 学生募集要項」および「同 入学(進学)試験 受験案内」を確認すること。